

第4回軽米町総合戦略策定委員会議事録

○開催日時：平成27年10月21日（水）午後1時30分～3時30分

○開催場所：軽米町役場3階会議室

○出席者

委員：岩手大学名誉教授 齋藤徳美、岩手県立大学特任准教授 千葉実、軽米町社会福祉協議会会長 菅原皓文、新岩手農業協同組合軽米支所長 山下祐一、二戸地域振興センター所長 佐々木亨、株式会社岩手銀行軽米支店支店長 田澤義明、軽米町商工会女性部長 高橋静子、株式会社工フエム岩手営業部販促企画室長 舘澤徳寿、軽米町認定農業振興会会長 田中祐典、軽米町PTA連合会会長 大崎純也、軽米町子ども子育て会議委員 苅谷百合子、軽米町文化協会会長 堀米成嘉、一般公募 堀米孝太郎、竹澤勳

事務局：総務課 日山、吉岡、畑中

委託業者：非営利活動法人仕事人倶楽部 山田、水野

○開会

（事務局）会議の成立について

本委員会は、20名の委員のうち14名の委員の出席をいただいたので、設置要綱第6条第2項により過半数の出席をもって会議が成立することを報告する。

○委員長あいさつ

（齋藤委員長）総合戦略の概略は、みなさんの議論のおかげでずいぶん見えてきたように思う。みなさんからいただいた意見を、できるだけ反映させるように、委員長・副委員長で時間をかけて調整してきた。だいぶ見やすくなったと自負している。今日も皆さんの意見でブラッシュアップを図りたい。

○協議事項

（1）人口ビジョン・総合戦略修正案について

資料について説明（事務局、省略）

（齋藤委員長）戦略は、基本目標の文言を整理して、わかりやすくした。3つの柱に、具体的な施策を入れたという形になっている。まずは質問等があればいただいて、その後皆さんからの意見をいただきたい。

（委員）すばらしい出来映え。皆さんの思いが入っていて、とてもわかりやすい。気になるのは、施策の中での6次産業。その中の2次産業が何なのか？加工の話はあまり出てこないのので、具体的に何をするのかを知りたい。それと「花いっぱいビューティー軽米」は今でもやっているのか？ここに下線のある意味合いを教えてください。

（事務局）1次産業、3次産業は進んできているが、それを加工するのが町内では非常に弱いのは事実。生産者が加工に取り組んでいる例はあるが、他の地域へ向けて大きく売り出すための加工は手が打てていない。これまでも取り組んできたが、ことごとく失敗している。今後の進め方については、町民の皆さんと相談しながら進めたい。

（事務局）「花いっぱい」については、記載場所が変わったために修正箇所として示した。内容は

変わっていない。

(委員) 取り組みの施策として、製造・加工も軽米でやりたいという思いを入れたらいいのではないか。ありのままの姿を示すことで、町民や事業者からのアイデアも寄せられるのではないかと。ぜひ町内で進めてほしい。

(仕事人倶楽部) シリアルについては、具体的な話が進みつつある。今日、参加されている委員さんの中でも加工設備を入れて進めつつある。

(委員) 軽米町と商店名の名前が入った商品を出したいということで努力してきた。昨年、保健所の許可を取って、ようやく商品を販売できるようになった。さんりく基金もいただいて、雑穀入りのなんばんを商品化した。第2弾も考えている。

(仕事人倶楽部) 雑穀については、シリアルとして商品化したいということで、商工会で検討を進めている。いくつか商品化も進んでいる。そのようなスモールビジネスが増えていけばいい。動き始めている部分については、書き込んだ方がいい。

(齋藤委員長) 動きつつあるものについては、記述として入れて良いと思う。他に質問は？なければ、感想でも良いので、1人ずつお願いしたい。

(委員) わかりやすいと言われれば、わかりやすくなった。気になるのは、実行力。書かれていることを、だれが引っ張っていくのか。最後の方にでも、それが書かれていれば具体的にイメージできる。大体のものは、役場が窓口になると思う。自ら生み出し、やるんだという意識が必要。

(齋藤委員長) これはもちろん町としての総合戦略ながら、実際に推進していくのは町の人々。住民の方々が動かなければ、絵に描いた餅になってしまう。その辺りはどう考えているか？

(事務局) 資料の p.22 に、住民と一体で進めていく方針を掲げており、そのような考え方で進めていく。窓口については、別添資料に担当課を記載してある。煩雑になるので本編には記載しなかった。どこが担当するかはこちらの表を参照していただきたい。

(齋藤委員長) 確かに、多様な主体が連携して、とは記載されている。それを実行していくために、個別に書き表していくのは難しいのかと思う。百人委員会もあり、それとの関係もあるのかと思うが。もう少し具体的な書き方をしていた方がいいのか？

(委員) 文章的な表現は現状でも良いが、もう少し具体的に書けるならば、と思って発言させていただいた。

(委員) 県民計画には、後ろの方にそれぞれの主体の役割分担が書かれている。そのようなものがあれば、役割がわかりやすくなるかもしれない。

(千葉副委員長) 県民計画は見えないが、そのようなやり方もあるかと思う。田中さんの意見は、みんなでやるというきっかけがあればという話だろうと思う。現行の案では、フォローアップにも町民などが入っているので、それでもよいかとは思いますが県民計画が参考にできるのであれば、取り入れたら良いと思う。

(事務局) いただいた意見を参考に、内部で検討したい。

(齋藤委員長) p.22 には実行にあたっての基本方針を掲げてある。今、いただいた意見を加味できるならば、事務局で検討いただきたい。

(委員) アンケート結果を見させていただいた中で、町民のみなさんの切実さが伝わってきた。こ

こに集まっている皆さんと、町民の皆さんが思いを共有し、迅速に行動していかないと行けないと思った。少しでも、何かの形を出していければと思う。

(委員) すごくわかりやすく、すごく良いと思う。出産・子育てに不安という中で、どこかで「1人産んだら100万円」というのがあった。産める年齢なら自分も、と思った。

(委員) 概略の資料は、とてもわかりやすくできている。この委員会に参加したことで、理解が深まった。軽米に住む人こそ宝なので、それをもう少し表に出せないかと思う。会議には出られなくても、まちづくりとなればとても熱くなる人がたくさんある。そういう人たちを、人材バンクとして町が把握し、活かしてもらえればと思う。町の宝を引き出せるようなしたたかさを持って、今後展開してもらいたい。

(齋藤委員長) 行政は苦手かも知れないが、うまく人材を活かすという戦略を立ててほしい。

(事務局) 軽米に来て3ヶ月、人材が豊富なところだと感じている。どこの市町村も、やる人がいないということで、人づくりを一生懸命やろうとしているが、軽米にはたくさんいる。これから、地域の人活躍できるソフト事業を来年度以降充実させていきたいと考えている。

(委員) 戦略については先ほど言ったとおり、すばらしいでき。ただし、軽米町はこれまでもアピールが上手ではなかった。ホームページで発信していくとあるが、町のホームページは使いやすいように刷新すべき。「ふるさと納税」は外の人に対してのアピールなので、魅力が伝わるようにしてほしい。今、多くの市町村のトップページには、「ふるさと納税」や移住情報のボタンがある。外向けのホームページとして充実させれば、横の連携ができるのではないかと。反応が出てくれば、関係者のモチベーションも上がる。「かるまいブランド」がホームページに出てこない。記者発表的な記事はあるが、「かるまいブランド」が何なのかのページがない。シルバー人材の情報も同じ。ホームページをいろんな方面で使って、活用していただきたい。南部の十字路は良いと思うので、観光の拠点として良い場所というのもアピールのポイント。「ふるさと納税」の返礼品にミレットの宿泊券を付けて、例えば青森のねぶたにも日帰りできるというのもアピールしたらいい。思いを出せる場でもあるので、ぜひ充実させていただきたい。

(齋藤委員長) ホームページは役場の中で作っているのか？

(事務局) ホームページについてはいろいろなご意見をいただいているので、内部の若手を中心に、外部への委託も含めて検討している。

(委員) 今回配布されたA3の資料は、だれが見てもわかりやすい資料だと思った。前回の委員会で、どの項目も進めていくという話があったが、どこから手をつけていくのかが知りたい。「交流駅構想」はとても良い。交流駅の中に、産直、文化会館、周辺には子どもが遊べる場所を付けることができれば、素晴らしい場所になる。障がい者や高齢者、若者、子育て中の人など、町民全体が集まれる場所になる。「だれもが暮らしやすいまち」につながっていくと思う。それからしつこいようだが、「ハイキュー！」のおもてなしは、やれる人がやればということだが、役場の中に案内担当を作っただけ、ホームページか看板か、「大歓迎」の横断幕などを掲げてほしい。今やるべきことだろう。

(齋藤委員長) 「ハイキュー！」に関して、今取り組むべきこととして、何か町の方では？

(事務局) 町の関わりとして、出版元に問い合わせたところ、ポスターを張り出すくらいは良いが、

ウェブページ等でのPRは作者さんに迷惑がかかるという話だった。どこが良くて、どこが悪いのかがわからず、現時点では判断できない状況。

(齋藤委員長) 著作権の関係があるので、どこまでできるかは確認した上で、できることをやるということだと思う。

(委員) 資料についてはすごく見やすく、びっくりしている。誰がやるのかという意見があったが、みんなでするに決まっている。概略説明はわかりやすいので、貼り出したり、広報に入れたりして、意識に植え付けるのが一番。PRで上手なのは、県内では遠野市。PRはやればやっただけ、ちゃんと効果は出る。TPPについて、自分の実家も農家で気になっている。産直をやっている母に聞くと、「あなたが食べているものをください」と言われると聞く。真面目に地道に続けることが大事。PRのためには、まず自分たちが理解することが必要。真面目にやっていると、口コミで伝わる。総合戦略については、この紙を使うのがいい。ホームページは自分の会社も弱くて、最近改修した。見やすくなった結果、ビュー（見ていただく方）が3倍に増えた。ホームページは24時間売ってくれる営業マンであり、やればやっただけの結果が出る。軽米に来て思ったのは、やはりここはシリアル。雑穀やシリアルで検索したら、軽米と出てくるくらいになってほしい。

(委員) 皆さんと同じで、1枚ものを見たときに、すごいなあと感じた。今までたくさんの資料を見せていただいて何となくわかった。気になっていたが、これはみんなが理解する上で、ありがたい資料。一人でやるわけではなくて、みんなでやるしかない。それをやるだけの人材はいる。ここに出させてもらって勉強させてもらい、ありがたかった。

(委員) 軽米町らしい内容であり、目指す姿として指数も具体的に出ているので、良いと思う。今町に住んでいる人からの発信力が一番大事だと思うので、ぜひ実行していただきたい。数字を見る商売をしているが、いつまでに誰が何をするのか、その計画が大事。みんなが、というのも大事だが、誰がやるのかをより具体化させていくことも必要だと思う。決まったら、あとはスピード。初動が大事。

(委員) 一枚物が良いという評価を皆さん言うておられるが、戦略本体についても軽米町の特色が出ていて、よくまとめられている。これから具体的に進めていくことになるが、大事なものは基本目標の①から③が別々なのではなくて、関連しながら進めていくこと。それぞれが密接に関係していく。それらの情報を出していくことが必要。町民と関係機関が協調して進めていくべきだろう。「ハイキュー！」については、別の作品での事件もあって、出版元が敏感になっていると言われている。地域としてどういうことができるのかについて、関係者で集まって情報交換をする機会を計画している。

(委員) A3の資料については、皆さん言われているとおり、よくまとまっていると思う。できるだけ早い時期に、町民の皆さんに見せてほしい。PDCAサイクルが大事なので、ぜひ循環して行ってほしい。

(菅原副委員長) 軽米に生まれ育って七十数年、まさに原住民。しかし、軽米の一部しか見てこなかったというのを最近感じている。軽米には本当にいろいろなことがある。それらが一番よくわかったのが、今日の資料。左から右へ、とてもわかりやすくなった。ぜひ全世界に配布していただき、町民のみなさんに知ってほしい。シルバー人材センターについての話が先ほ

ど出たが、現在どんどん人が減ってきている。そして、仕事が少ない。かつては公共事業が多かったが、現在は民間の仕事が多い。他の市町村のシルバー人材センターはたくさんの方が働き、一桁多く稼いでいる。軽米はもともと仕事が少ないので、一般の人の仕事を奪うわけにはいかない。シルバーができるのは、臨時的、短期的、軽易な仕事だけ。そのような実情を理解していただきたい。それから、子育て世帯の転入について、東京にいる人で帰ってきたいと思いつながら、仕事がないために帰れない人もいます。仕事のあっせんなど、Uターンの相談窓口設置など、受入策を真剣に考えなければいけない。

(千葉副委員長) 事務局のみなさんにお疲れさまと言いたい。本編の p4-5 について、今回大事なのは、データに基づいて議論するというところだった。その上で、人口が下がるのは仕方ないけれど、それに抗うという姿勢を示すことが必要であり、指標や目標が大事になってくる。出生率 2.07 は人口が下がらないとされているが、それは全国版の話。軽米町では高齢化が進んでいて、それでは止まらないので 2.22 を目指そうとしていて、評価できる。2.07 では下がり続けるということであれば、それを p5 のグラフの中に示すことができないか。皆さんの覚悟もよりはっきりするのではないかな。

(齋藤委員長) 一通り意見をいただいたところであるが、言い足りないことなどあれば。

(委員) 誰がやるのか、についての意見を言わせていただいたが、個人がやるというのはその通りだと思った。これが出たときに、それぞれがやるんだ、というのが伝われば良いと思う。

(齋藤委員長) 全体的にわかりやすいという評価だったかと思う。一字一句見ていけば、細かなご意見が出てくるかと思うが、まずは全体としてこの案で認めて頂くということが良いかな？

(拍手) 住民の皆さんに説明会を開くなど、できるだけアピールして、理解していただくことに努めていただきたい。この町でどのような施策をすれば人口減少を食い止められるのかが浮かび上がったと思う。

(町長) 皆様方には、4回にわたり熱心に議論していただき、またアイデアをいただき、感謝申し上げます。人口減少というのは全国的な流れであり、どこの市町村も取り組んでいるところであるが、軽米町としても積極的に取り組んでいきたい。一つでも形にできるように、今後の予算編成も含めて具体化していきたい。

(齋藤委員長) 戦略については、2月に答申となるが、その先どうしていくのか、事務局の考えがあれば説明いただきたい。

(事務局) フォローアップについて、資料の p.36 をご覧いただきたい。フォローアップの体制については、現在進んでいる百人委員会の代表者も含めながら、新年度以降「推進委員会」(仮称)を設置したいと考えているが、具体的な内容はこれからとなる。

(齋藤委員長) この策定委員会はあと1回(2月)で終了となる。それで完了ということではなく、その後の検討も継続していただきたい。

○閉会

(事務局) 閉会あいさつ